

千葉日報報道（平成 24 年 5 月 26 日～7 月 14 日）

水	利根川水系の浄水場で水質基準を超えるホルムアルデヒドが検出された問題。群馬の産廃業者が排出か。	1 面	5. 26
放射能	東京電力福島第 1 原発事故に伴う微量の放射性セシウムが、米西海岸沖のクロマグロから検出。	20 面	5. 29
ギラン・バレー症候群	原因不明細菌やウイルスの感染がきっかけとなり、免疫機構が末梢神経を攻撃してしまうことで引き起こされるらしい。	16 面	6. 2
がん告知	がん告知後の道しるべ。「重要な面談にのぞまれる患者さんご家族へ」をウェブサイト (http://pod.ncc.go.jp) で公開。	16 面	6. 2
アルコール依存症	自助グループ活動アルコホリックス・アノニマス (AA) や断酒会。参加することで、飲まないですむ人が出てくる。	6 面	6. 3
がん診断	口腔がんを早期発見、歯科医院でチェックを。超高齢化で患者増加。死亡者数について口腔がん単独のデータはない。早期のステージ I と II なら 5 年生存率は 90%前後。	17 面	6. 14
特定保健用食品 (トクホ)	黒烏龍茶 CM、改善を。サントリー食品に消費者庁。内閣府の消費者委員会で、「これだけ飲めば問題ないと消費者に誤解を与える恐れがある」「バランスの取れた食生活を考慮しなくてもよいと示唆しているようだ」などの指摘。	19 面	6. 26
病院経営	松戸市立病院建て替え、市が計画素案。9 階 600 床、17 年度開院。事業費 128 億円に疑問の声も。	10 面	6. 26
病院経営	救急基幹病院東千葉メディカルセンター (MC) の開院を目指す地方独立行政法人東金九十九里地域医療センターの評価委員会 (第三者委員会)、開院準備は計画通り。	8 面	6. 27
肝胆	便に色をつける“材料”は胆汁、薄い色は胆汁の流量が少ないことを表す。早期発見を助ける便色カードが 4 月から母子健康手帳にとじ込まれた。生後 60 日までに手術 20 年生存率は 43%。	15 面	6. 29
栄養	暑い時期の食事。大量の汗と一緒にビタミンやミネラルも体外へ。夏の食事は、いつにもまして望ましい食事 (質と量) を。	8 面	7. 1
医療器械	世界最小らせん針開発。千葉大学と北海道大学との共同研究で、学術誌ナノレターズに発表。	1 面	7. 1
皮膚病	新皮膚感染症、全国に散在。熱帯に多いブルーリ潰瘍。病原菌は結核菌やハンセン病菌が属する抗酸菌の一種。皮膚病変の一部をハンセン病研究センターに送れば DNA 検査で感染の有無が判定できる。	6 面	7. 1
寿命	厚生労働省が日本人の健康寿命を初めて算出。死亡時の年齢から入院や介護の期間を引いた年齢。2010 年時点で男性が 70. 42 歳、女性は 73. 62 歳。同じ年の平均寿命は男性 79. 55 歳、女性 86. 30 歳のため、健康な日常生活を送れなかった期間は、男性が約 9 年、女性は約 12 年。	2 面	7. 2
ギテルマン症候群	腎臓病の一種で治療法が解明されていない。厚生労働省に約 7 千人分の署名簿を提出し、治療法の研究を促進するよう要望。	6 面	7. 2
栄養	葉酸はうつ症状予防か。国立国際医療研究センター疫学予防研究部の南里明子室長らが精神医学研究誌最新号に発表。	17 面	7. 5

エイズ	エイズ感染検査自宅で可能に。米食品医薬品局（FDA）が HIV 検査キットを認可。感染者へのテストでは 92%、非感染者に対しては 99%以上の確率で正しい結果。	3 面	7.5
風しん	流行の兆し。松戸市では保育所で男児や家族が集団感染したほか、船橋市では男児が溶血性尿毒症症候群（HUS）を併発など重症例も報告。	1 面	7.7
多発性硬化症	神経内科の専門医の診察による早期発見、早期治療が決定的に重要。患者のほとんどは症状が出た部位に応じて、眼科、整形外科などを受診し、専門医にたどりつくのが遅れるケースも多い。	16 面	7.8
AGE（終末糖化産物）	新書だより。山岸昌一著「老けたくなければファーストフードを食べるな」（PHP 新書・819 円）。	18 面	7.10
老化	新書だより。杉本正信著「ヒトは一二〇歳まで生きられる」（ちくま新書・777 円）。	18 面	7.10
法医学	筑波大は今春から、法医学コースを新設。全国初。4 年間の研修プログラム。病理や放射線診断などの領域も学ぶ。	19 面	7.13
がん治療	厚労省検討会、抗ガン剤副作用被害を受けた患者の救済制度創設見送り。結論出せる段階にない。	19 面	7.14